令和５年度　第１回西宮市産業振興審議会計画部会　議事録要旨

●開催日時：令和５年６月６日（火）10:15～12:00
●場所：西宮市職員会館３階大ホール
●出席委員：上村委員、山下委員、兼吉委員、清水委員、藤田委員、金丸臨時委員、
中嶋臨時委員、澤田臨時委員、竹内臨時委員、折田臨時委員、立花臨時委員、
吉住臨時委員、坂倉臨時委員
●欠席委員：古野委員、加藤臨時委員　（敬称略）
●事務局：長谷川産業文化局長、阪口商工課長
（商工課）上田係長、中村係長、鳥居係長、中谷主査

１．開会の挨拶等
（１）開会にあたり長谷川産業文化局長より挨拶
（２）審議会成立を報告（15 名中 13 名の出席を確認）
（３）配布資料の確認、計画部会の位置付け、今後の計画部会スケジュールを説明
（４）委員の自己紹介
（５）西宮市附属機関条例第 3 条第 1 項に基づき、会議に諮った結果、計画部会長に上村委員、職務代理者に山下委員が選出された。

２．議題
（１）西宮市産業振興の現状と課題について
事務局より配布資料を元に説明

（「・」は委員、「→」は事務局の発言）

【①商店街】
・いわゆる大店法から大店立地法に変更となり、規制緩和等もあり、特に西宮市内では大型商業施設の立地が進み、西宮の商店街で酒屋や米屋をはじめとする物販店が減少している。鉄道会社により、駅ナカ・駅下が開発されることで商店街への人の流れがなくなった。加えて、今年 10 月からはじまるインボイス制度の導入、賃金引き上げの気運、電子マネーの普及等により、家族経営、地元密着店舗は減少するだろう。また、飲食店やチェーン店が増えているが、それでは地域のコミュニティづくりは進まない。商店街の解散や商店市場連盟脱会の動きもある。セールやイベントを実施した際の効果検証が必要だと思っている。（委員）
→商店街は単なる物販だけではなく、コミュニティの場として重要である。市も支援事業を行っているが、現状を大きく変えることができていない。

・商店街によっては世代交代により、子育て層が中心となった運営やイベント企画に転換しており、国や県の補助金も積極的に活用している。非常に良いコミュニティになりつつあると思っている。この成功事例を西宮で横展開できるとよい。

・これからの戦略策定は、あるべき姿⇒現状と課題⇒それにどう取り組むか、という流れになる。高すぎる目標は難しいが、議論のベクトルを合わせるため将来のまちのイメージを想定しながら、議論を進めて行きたい。

・理想を掲げる話は重要だが、このまま5年間を過ごした場合、どうなるかという想定も必要である。地域はあらゆる人にとって重要な存在であり、現状から想定される未来も想定しておく必要はある。地域が縮小すると、事業経営も、住むことも難しくなる。

【②まちづくり】
・西宮市は文教住宅都市を基調として発展を遂げてきたが、産業面での発展も重視し、それが税収や雇用につなげていく必要がある。これまで重要な企業が市外に流出してしまった経験もあり、そうした反省もふまえながら、産業面での活力をどう高めていくかが重要である。
・西宮市の大きな特徴である人口ポテンシャルを上手く活用した政策展開が重要である。
・西宮市は子育て世代も多い。多様な働き方の部分でも指摘があったが、こうした層が活躍できる新しいモデルを西宮から発信できるとよい。

【③ビジネスモデルの拡充】
・ビジネスの多様性は重要だが、法人市民税の拡大を狙うのであれば、女性・リタイア層のスモールビジネスだけでなく、また違った層を狙うことになるだろう。
・どこをゴールに描くかによって、セミナーのプログラムも大きく異なる。
・西宮地域の起業者の特徴はスケール（経済的価値）を追求するというよりも、生活の充実度向上など精神的価値を重視したものが多い。大阪方面とは状況は大きく異なる。「起業」から「事業創造」、「産業創造」までつなげていくのに短期では難しい。
・どちらを狙うのか限定するのは難しいが、産業振興につながらなければ支援の必要性が問われる。長期での種まきをもっと考えるべきだろう。また、事業所の誘致ももう少し頑張りたい。
・開業した後、どれくらい事業継続できているかというデータはあるか。
→今のところ、そうしたデータはない。

【④企業誘致】

・湾岸エリアに土地ができると物流系が進出するケースが多いが、物流系はあまり雇用を生まない。土地が生まれた時、どのように製造業を誘導できるか。

・第３次計画において、既存産業の基盤強化という項目があるが、西宮の場合、市内にほぼ土地がない。市内で操業する工場が建て替えもできず、流出につながっている。そうはいっても、新たな企業誘致は進める必要があり、特に製造業は付随する産業や税収効果も大きい。「湾岸部への物流は避ける」といったことを考えるのが計画であり、誘致する産業分野をもっと絞り込むことはできないか。

→これまでも大きな企業の移転を経験しており、その後に物流系が入るというのは良く起こる現象である。用地の問題は難しい部分ではある。

・新規に企業誘致した場合、その従業員が地域に溶け込めれば、経済の循環も生まれる。また西宮には都市部に通勤している方が多いこともあり、そうした方々が上手く市内でお金を使う仕組みも必要である。

【⑤西宮市の今後の産業施策】

・これまでの行政による施策をみると、予算規模（総額）は一定なのに施策の数が増えすぎて一つ一つの施策が「小粒」になっている。次期計画では、今までの取組では何が効果的だったかの確認も含め、一定の選択と集中も必要になるだろう。

・行政支援による産業支援も重要だが、市役所だけに頼るのはダメである。民間によるアグレッシブな活動を行政が後方支援（制度づくり、広報 PR）するという構図も考えられる。

・行政の役割としては、民間による取組を規制緩和などで後方支援し、投資はメリハリをつけて集中投資することが必要である。

・中小企業の人材採用戦略に係る調査研究をしたことがあるが、これからの企業経営は多業種・多分野の人材をどれだけ集められるかが重要となる。例えばものづくりの現場とデザインが連携し、発想の転換による新しい価値創造をしていくといった取組が必要である。

・今後の行政政策は、最上位の「ビジョン」に基づいて、政策⇒施策⇒事業というフローで流れていくイメージである。ビジョンを示すことで、事業のＳ＆Ｂ（スクラップアンドビルド）が進められる。これに加えて、①民間領域の事業と②行政・民間の中間にある PPP の活用といった視点も重要になる。

３．閉会

（１）閉会の挨拶及び次回の案内を実施